

# 山口県病院協会会報

2024 **10月号** No.85

- 発行日 令和6年10月1日
- 発行所 一般社団法人山口県病院協会  
〒753-0814 山口市吉敷下東三丁目1番1号
- 電話 083-923-3682
- FAX 083-923-3683
- 発行人 三浦 修
- 印刷所 大村印刷株式会社
- メールアドレス info@yha.or.jp
- ホームページ <http://www.yha.or.jp>



## 総合病院山口赤十字病院

〒753-8519

住 所 山口市八幡馬場53番地1

電 話 083-923-0111

F A X 083-925-1474

URL : <https://www.yamaguchi-redcross.jp/>

## CONTENTS (目次)

会員病院紹介	2ページ
協会役員コーナー	3ページ
病院スタッフコーナー	4ページ
叙勲祝賀会報告	5ページ
医療懇話会報告	6ページ
部会コーナー	6ページ
研修会報告	7ページ
諸会議報告	8ページ
お知らせコーナー	8ページ

## 会員病院紹介

### 病院長挨拶 ～総合病院山口赤十字病院～



総合病院山口赤十字病院  
病院長

末兼 浩史

当院は1920年（大正9年）に山口県病院を日本赤十字社が譲り受け、日本赤十字社山口支部病院として発足しました。その後、1958年（昭和33年）に現在の名称である「総合病院山口赤十字病院」に改称し、2020年（令和2年）に創立100周年を迎えました。

そしてこの度、42年間使用し老朽化していた南病棟を建て替え、患者さんの利便性と安全の確保とともに病院機能を強化・効率化した新北病棟を2020年（令和4年）10月にオープンしました。さらに中央駐車場整備を含む外構工事が完了し、2024年（令和6年）4月にグランドオープンの運びとなりました。

新病棟の建て替えにあたっては、築24年目の東病棟の改修と合わせて、分かりやすく移動しやすい動線、見通しのきくエリア・ブロックの表示、明るく広いバリアフリー空間の確保、院内感染を防ぐ動線、発熱外来整備、会計・案内表示の電子化など整備をしてみました。

北病棟竣工で病床はダウンサイジングとなりましたが、効率的、効果的なベッドコントロールを行い、適正な在院日数管理を目指すことで、患者さんの受け入れに支障が出ないような取り組みを行ってまいります。

今後も紹介患者さんや救急患者さんに対して積極的に応需できる体制を整え、赤十字病院として良質で温もりのある医療の提供を行うとともに、公的医療機関、地域医療支援病院として、地域の皆様に継ぎ目のない安心な医療を提供できるよう努力していく所存ですので、一層のお力添えのほど、よろしくお願い申し上げます。

#### 〈病院の現状〉

##### 1) 概要

名 称 総合病院山口赤十字病院

開 設 者 日本赤十字社 社長 清家 篤

所 在 地 山口県山口市八幡馬場53番地1

病 院 長 末兼 浩史

T E L 083-923-0111（代表）

F A X 083-925-1474

U R L <https://www.yamaguchi-redcross.jp/>

病 床 数 377床

標榜診療科および特殊診療科

内科、消化器内科、腎臓内科、呼吸器内科、糖尿病内  
分泌内科、膠原病内科、循環器内科、脳神経内科、精  
神科、小児科、外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外  
科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、  
気管食道科、放射線科、リハビリテーション科、歯科  
口腔外科、麻酔科、緩和ケア内科

##### 2) 沿革

大正9年4月 日本赤十字社山口支部病院（233床）  
として発足

昭和18年1月 山口赤十字病院と改称

昭和33年1月 総合病院山口赤十字病院に改称

昭和55年5月 南病棟竣工  
平成11年10月 新東病棟・ライナック棟完成  
平成12年1月 緩和ケア病棟として25床を承認  
平成28年9月 地域医療支援病院認定 許可病床数  
427床となる  
令和元年5月 新病棟建設起工式  
令和2年4月 創立100周年を迎える  
令和4年10月 北病棟竣工 許可病床数377床となる  
令和5年2月 東病棟改修終了  
令和6年1月 能登半島地震に救護班、コーディネ  
ーターチーム、こころのケア要員派遣  
令和6年4月 中央駐車場整備完了 グランドオープン

##### 3) 特徴

わたしたちは、「患者さん中心の地域連携」に取り  
組み、あたたかな信頼のおける医療を提供する、とい  
う理念のもと、より安全で質の高い医療を提供したい  
と考えております。

また、現在、基幹病院として、年間3,000台近くの  
救急車を受入れ幅の広い急性期医療を提供し、地域周  
産期母子医療センターや小児救急医療拠点病院として  
周産期医療・小児医療や、緩和ケアを含めたがん診療  
に力を入れています。

## 協会役員コーナー

### 変化する社会構造の中で



医療法人南和会  
みどり病院  
理事長 病院長

吉居 俊朗

2040年には、65歳以上の高齢者が全人口の3割を超えるものとされており、高齢者の割合がピークになる一方で生産年齢人口は急減し、社会保障や経済に大きな影響を与える可能性があります。山口県においては、人口減少に加え高齢化率の上昇に歯止めがかからない状況が続いており、全国よりも早い段階で生産年齢人口の減少が発生するものと思われ、特に医療・福祉の事業では需要とのアンバランスが生じ、活動維持に関する問題の深刻度が増します。その中で医療・福祉サービス改革（医療・介護の生産性の向上、体制強化）、診療報酬改定に対応しながら効率的な資源配分とスタッフの確保、時代に即した（慢性期対応を主とする当病院においては地域における他病院・施設等との連携に重点を置いた）対策・人材育成等の対応に頭を悩ませています。また、コロナ禍で露呈した新興感染症対応の脆弱性とその強化も課題の一つと考えています。

コロナに限らず感染症に対するリスクはこれからも存在します。病院は引き続き感染症に対し備える必要がありますが、経済活動が活性化する中、繰り返し押し寄せる感染の波により医療従事者の疲労は蓄積しています。その中においても患者が安心して病院を利用できる環境を整えることが重要と考えますが、この事に日夜協力して頂いている職員に深謝しております。

矢継ぎ早に記しましたが、基本に立ち返り今後も患者が住み慣れた地域で安心して療養できる環境の維持、知見に基づいた感染対策の見直しと強化を継続実施し、患者と職員の安全確保を図り、持続可能な提供体制の構築に努めます。

### 夏休み



山陽小野田市民病院  
病院長

藤岡 顕太郎

本年7月から新型コロナウイルスの新たな変異株KP.3の感染が急速に拡大し、第11波が到来しました。当院は5年ぶりに新入職員の歓迎会を7月に2回に分けて行う予定でしたが、初回は無事行われたものの、8月16日現在2回目の歓迎会は延期のままとなっています。幸い私は初回の歓迎会に出席しましたので楽しむことができました。医療関係団体による懇親会も8月に入ってから軒並み中止となっています。懇親会により親睦を深めることができるので残念です。全くコロナにはうんざりしますが、仕方ありません。乗り越えるしかないのであります。コロナにより打撃を受ける業界もあれば、競馬やオートレースの売り上げは好調のようです。

8月8日にはマグニチュード7級の日向灘地震が発生し、南海トラフ巨大地震の発生が危惧されています。15日巨大地震注意の呼びかけが終了しましたが、予断を許さない状況です。当院でもBCP（Business Continuity Plan）の再確認を行っているところです。

コロナに地震と陰気臭くなりますが、今年の夏休みはゆっくりできそうです。昨年は1週間の夏休み期間中コロナに感染しずっと自宅療養となってしまいました。今年は6人の孫と触れ合い、元気をもらっています。



## 病院スタッフコーナー

### いつでも気軽に相談していただける環境づくり



医療法人三生会  
みちがみ病院  
臨床検査技師

弘中 靖子

「女性と子どもと家族のための病院」として地域の産科医療の一端を担っている当院では、NIPT（新型出生前検査）実施施設として認証登録を受け、2024年4月より検査を実施しています。NIPTは、2010年に米国で開発された新しい検査です。この検査を受け、疾患等の有無を予め知ることで、生まれてくる子どもに合わせた最適な分娩方法や療育環境を検討することができます。

一方、検査の結果によっては、その後の妊娠生活や生まれた子どもの育て方に大きな影響を及ぼす可能性があります。検査を受けるべきかどうかや、結果が出た後の意思決定は、ご夫婦やご家族の自立的な判断で行われるべきものであり、その意志は最大限尊重されなければなりません。当院では、事前に正確な情報を提供し、不安や悩みに耳を傾け、適切なカウンセリングを行い、納得のいく選択ができるように支援しています。

検査開始以降、「検査を受けたい」「他の病院に通っているけどいいですか？」「まずは話を聞いてみたい」という声を実際に聞き、NIPTへの関心の高さを実感しています。また、情報量が多く、どうしたらいいのかわからないと悩まれる妊婦さんも少なくありません。常に患者さまに寄り添う『チームみちがみ』の一員として、いつでも気軽に相談していただける環境づくりに努めていきたいと思っています。

出生数の急激な減少や、産科に携わる医療従事者の確保の困難などさまざまな苦境に見舞われている現状ではありますが、赤ちゃんの産声が、ご夫婦を、ご家族を、山口をそして日本を幸せにしてくれるよう願っています。

### 医療の中の福祉 ～ふだんのくらしをあわせに～



医療法人其桃会  
西尾病院  
医療ソーシャルワーカー  
社会福祉士

道中 朋子

皆さんの病院には、「医療ソーシャルワーカー（以下、MSW）」はいらっしゃいますか？

「MSW」は、多くは社会福祉士の資格を持ち、患者様やご家族を福祉の視点から支援しています。

患者様は、「体調が良くなったから、また元気に自宅で過ごせるよ」という方ばかりではありません。入院中にADLが低下したり、思いがけない障害が生じたり介護が必要になる方もいらっしゃいます。「当たり前の生活」が送れなくなったときに頼りにしていただきたいのが、「MSW」です。

「MSW」には、大きく2つの特技があります。

一つ目は、「傾聴力」です。

患者様やご家族からお話しをお伺いし、困っていることや不安に思っていることを確認します。課題を整理し、課題解決のためにどうすればいいか、どういう方法があるのか、一緒に考えていきます。

しかし、MSWだけでは解決できないことがたくさんあります。そのとき発揮される力が、二つ目の「つなぐ力」です。

MSWは、行政や福祉、教育等の各施設、地域の民生委員等のインフォーマルサービス等、さまざまな関係機関の特色を把握し、患者様やご家族に情報提供しながら双方を「つなぐ」ことで課題解決をはかります。関係機関と日頃から「顔がみえる関係」を整えていることは、スムーズな連携につながります。

「ふくし」とは、「ふだんのくらしをあわせに」することだと思います。困ったときは福祉の専門家であるMSWにぜひ相談してくださいね。

# 三浦 修会長 瑞宝双光章受章記念祝賀会開催

令和6年6月28日（金）、山口グランドホテルにおいて、山口県知事代理 國吉健康福祉部部長を始め、多数の御来賓と協会傘下の会員病院、賛助会員の参加のもと、山口県病院協会会長 三浦 修先生の瑞宝双光章受章記念祝賀会が盛会裏に開催されました。



## 主な経歴

平成10年5月～現在	(一財) 防府消化器病センター防府胃腸病院 病院長
平成23年4月～現在	同 理事長
平成11年4月～平成23年3月	(社) 山口県病院協会 理事・常任理事
平成23年4月～令和元年5月	(一社) 山口県病院協会 副会長
令和元年5月～現在	(一社) 山口県病院協会 会長
平成12年4月～平成18年3月	(社) 山口県医師会 理事・専務理事
平成18年4月～平成22年3月	(社) 山口県医師会 副会長
平成22年4月～現在	(一社) 日本病院会 理事

## 主な賞罰

平成27年11月	山口県選奨受賞
----------	---------



瑞宝双光章 勲記勲章



祝賀会の様子

## 医療懇話会報告

令和6年8月20日（火）午後4時より、KKR山口あさくらにおいて令和6年度医療懇話会が開催され、山口県健康福祉部からは國吉宏和部長ほか計12名、山口県病院協会から三浦修会長ほか計19名が出席した。

三浦会長ならびに國吉部長より挨拶がなされ、出席者の自己紹介が行われた。続いて、健康福祉部の各課長より、令和6年度の山口県健康福祉部の事業概要についての説明がなされた。

続いて協会側からの質問や意見要望が県へ伝えられ、各担当課長と積極的な意見交換がなされた。



三浦 修 会長



山口県健康福祉部 國吉 宏和 部長



懇話会風景

## 部会コーナー

### 令和6年度 山口県病院協会看護部長部会 総会および第1回研修会

令和6年8月9日（金）、セントコア山口において、令和6年度山口県病院協会看護部長部会の総会および第1回研修会が開催され、30名の参加があった。

総会では役員の異動について報告された。引き続き、社会保険労務士の梅田氏を講師としてグループワークを交えた研修が行われた。閉会後の意見交換会には16名が参加し、4グループに分かれて研修内容についての掘り下げや職員確保についてなど、様々な問題に関して意見交換を行った。

#### 【総会】

議題1 看護部長部会役員の異動の報告  
〈役員名簿〉

部 会 長	大林 由美子	（山口赤十字病院 副院長・看護部長）
副 部 会 長	福字 洋子	（周東総合病院 看護部長）（新任）
常 任 幹 事	杉山 洋子	（周南記念病院 看護部長）
常 任 幹 事	原田 美佐	（山口大学医学部附属病院 副院長・看護部長）
常 任 幹 事	坂本 由紀子	（下関市立市民病院 看護部長）

#### 【研修会】

演 題 「看護師の働き方改革 労働時間、パワハラ等の事例解説」  
講 師 医療労務コンサルタント・やまぐち働き方改革アドバイザー  
社会保険労務士 梅田 有紀 氏



大林部会長挨拶



梅田 有紀 氏



研修会風景



## 研修会報告

### 令和6年度 看護師長研修会

令和6年7月25日（木）セントコア山口において看護師長研修会が開催され、48名の参加があった。研修会の演題・講師は以下のとおり。

演 題 「部下育成のためのコミュニケーションスキルについて」

講 師 有限会社 ケイ・アンド・ワイ

人材育成部門代表 温品 富美子 氏

研修後のアンケートでは、「世代に応じた対応が必要であり、自分の価値観を押し付けないことが大切だと分かった」「リーダーシップの4つのパターンの使い分けについて、ぜひ試していきたい」などの感想があった。



### 令和6年度 病院職員研修会

令和6年9月5日（木）セントコア山口において、6月に開催された初級職員向けの接遇研修基礎編に続く中級職員向け研修として病院職員研修会が開催され、34名の参加があった。研修会の演題・講師は以下のとおり。

演 題 「接遇研修【応用編】～電話応対、クレーム処理、レジリエンス」

講 師 K m i n d代表 松永 佳世子 氏

研修後のアンケートでは、「電話応対は良く行う事なので勉強になった」「クレーム処理について知るきっかけができた」「レジリエンスについて職場で共有したい」などといった反響があった。



### 令和6年度 看護補助者・介護職員研修会

令和6年9月13日（金）セントコア山口において、コロナ禍以来5年ぶりとなる看護補助者・介護職員研修会が開催され、57名の参加があった。研修会の演題・講師は以下のとおり。

演 題 「職場におけるコミュニケーションスキルアップ研修」

講 師 有限会社 ケイ・アンド・ワイ

人材育成部門代表 温品 富美子 氏

コミュニケーションスキル研修は大半が初めて受講するとのことであったが、アンケートでは、「クッション言葉が苦手で、勉強になった」「初めて対面する人との実践で勉強になった」「職場に持ち帰ってシェアしたい」などの感想があった。



## 諸会議報告

### 令和6年度 第2回情報管理委員会

日時 令和6年9月6日（金）15：30～16：30

開催方法 Web開催（Zoom）

- 【協議事項】
1. 10月号の発行について
  2. 新年号の発行準備について
  3. その他



## お知らせコーナー

### 山口県病院協会が共催・後援する集会等のお知らせ

#### 【日本医療マネジメント学会 第23回山口県支部学術集会】

開催日時 令和6年11月16日（土）13：00～17：00

開催場所 徳山中央病院

お問合せ先 学術集会事務局（徳山中央病院総務企画課） TEL：0834-28-4411

#### 【第21回 山口県ケアマネジメント研究大会】

開催日時 令和6年11月17日（日）10：00～16：00

開催場所 山口県セミナーパーク 講堂

お問合せ先 一般社団法人 山口県介護支援専門員協会 TEL：083-976-4468

#### 【循環器病対策県民フォーラム・やまぐち健幸食生活フォーラム】

開催日時 令和6年11月23日（土）11：00～16：30

開催場所 周南総合庁舎さくらホール

お問合せ先 山口県健康福祉部健康増進課 TEL：083-933-2950

### 病院協会の主な行事予定

- |         |                  |                |
|---------|------------------|----------------|
| ○10月24日 | 事務長部会総会および第1回研修会 | （会場：山口グランドホテル） |
| ○1月24日  | 四県病院協会連絡協議会      | （会場：福岡県）       |
| ○1月中旬   | 第3回 理事会          | （会場：未定）        |

#### 編集後記

◆今、山口県では、救急医療が崩壊の危機を迎えていると思っています。◆2004年から始まった新臨床研修医制度により、都会での生活の利便性、子供の教育、医療施設の規模や症例の多寡など、より良い診療環境を求めて、都市部に研修医が集中し、研修終了後も地方には医師は戻ってこない状況が今も続いています。この医師偏在化のため、山口大学では医局に入局する医師が激減し、医師を地域に派遣できなくなっているのです。その結果、山口県は、若手医師の少ない、全国で最も医師の平均年齢の高い県となっているのはご存じの通りです。この20年間、山口県の救急医療を支えてこられた先生方にも高齢化、疲弊化の波が容赦なく押し寄せています。1次救急の危機は、2次救急の危機を招き、2次救急の危機は3次救急の危機へとつながっていきます。◆医師偏在対策として、2020年度、山口大学では22名の地域枠と山口県独自の医師就学資金貸付枠として、25名が確保されています。彼らが卒業し、地域医療に従事できるようになるまであと10年。それまでは、今ある医療資源を大切に、ともに力を合わせて山口県の医療を守っていきましょう。（神徳 真也）